

2016年7月3日(日)朝10:10～

聖霊降臨節第8、オリーブ会

7月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**試みの時、わたしはあなたを守る**

聖書:ヨハネの黙示録 3章7～13節

＜口語訳＞

新約聖書389頁

ヨハネの黙示録 3章7～13節

＜新共同訳＞

新約聖書456頁

ヨハネの黙示録 3章7～13節

＜新改訳第3版＞

新約聖書479～480頁

ヨハネの黙示3章7～13節＜塚本訳＞

新約聖書784～785頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
 - ◇ヨハネ黙示録1章では、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を持って生きるキリスト者への励ましのことばと黙示の神の御子イエス・キリスト様の愛の思いが啓示され、2章1～7節は、エペソ教会へ、8～11節は、スミルナの教会へ、12～17節は、ペルガモの教会へ、18～29節は、テアテラの教会へ、3章1～6節は、サルデスの教会へ手紙です。
 - ◇ヨハネの黙示録3章1～6節は、フィラデルフィアの教会へ手紙です。
- ⇒フィラデルフィアは、ペルガモ王が、兄を愛し、その思いを名とした都市で、「兄弟愛」を意味し、フィラデルフィア教会は、その意味の通りの姿を反映しました。サルデスの南40kmで、火山高地を利用した葡萄の産地でした。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第3章7～13節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録3章7～8節；フィラデルフィヤ教会は、閉じられることのない開かれた天の門を与えられていました。

◇7～13節；塚本訳◆フィラデルフィヤ教会への手紙

「7 また、ヒラデルヒヤ教会の御使いに(手紙を)書け、聖なる者、真実なる者、ダビデの(家の)鍵を有ち、開けば閉ずる者なく、閉ずれば開く者なき者がこう言う——

8 私はお前の(善い)業を知っている。(だから)視よ、私は(お前を王国に入れるために、)お前の前に(広く)開いた門を置いてやった。誰もそれを閉ずることは出来ない。(何故なら、)お前は(この世にほんの)少しの勢力しか有たないのに、(よく)私の言を守って、(どんな場合にも決して)私の名を否まなかったからである」と、ヨハネは主からの手紙を書き、天使宛に送りました。

◇7節 ; 「フィラデルフィヤ」への神の御子 イエス・キリスト様は、「聖なる者、真実なる者、ダビデの(家の)鍵を有ち、開けば閉ずる者なく、閉ずれば開く者なき者」と、ヨハネ書いています。

⇒「聖なる者、真実なる者」は、地上で十字架を背負われた神に忠実、真実の御子の姿です。

⇒「ダビデの(家の)鍵」は、「王権・権威のお方で、天の門の鍵を持つお方」です。

⇒ですから、「開けば閉ずる者なく、閉ずれば開く者なき者」で、フィラデルフィヤ教会には、天の門は、常に開かれていたのです。

◇8節 ; 「フィラデルフィヤ教会」への神の御子の評価は、「お前の(善い)業を知っている、お前は(この世にほんの)少しの勢力しか有たないのに、(よく)私の言を守って、(どんな場合にも決して)私の名を否まなかった」でした。

⇒フィラデルフィヤ教会は、小さな教会で、財力、地位、権勢には欠けていましたが、神信仰は、豊かで、「神の言を守って、(どんな場合にも決して)神の名を否まなかった」のです。

◆ 黙示録3章9節 ; フィラデルフィヤ教会は、自称ユダヤ人の誹謗、迫害、虚偽に耐えていました。

◇ 7～13節 ; 塚本訳 ◆ フィラデルフィヤ教会への手紙

「9 (だから)視よ、私はサタンの会堂(の或る者、)すなわち(自分で)自分をユダヤ人であると称えながら、(その実決して真の)ユダヤ人でなく、かえって虚言をつく者の或る者に、こうさせる——視よ、私は彼らをしてお前の足下に来て(お前を)拝ませる。そして、(その時)彼らは(はじめて、)私がお前を愛していたことを知るであろう」と、ヨハネは主からの手紙を書き、天使宛に送りました。

◇ 9節 ; 「自称ユダヤ人」は、「虚言をつく者」で、「サタンの会堂」の者というのが、実体でした。

⇒ フィラデルフィヤ教会の人々は、「サタンの会堂・集まり」には、参加せず、「神の会堂」に属する生活を行っており、「お前の(善い)業を知っている」(8)と、神の御子イエス・キリスト様が高く評価されたほどの神の群れでした。

⇒ 神は、「お前を愛していたこと」敵に知らせると。

◆ 黙示録3章10～13節；フィラデルフィヤ教会は、①試みの時、守る、②天の神殿の柱とするとの約束を与えられました。

◇ 7～13節；塚本訳 ◆ フィラデルフィヤ教会への手紙

「10 お前は私の忍耐(に倣って忍耐し、これについて私)の言を(よく)守っ(てくれ)たから、私もまた、地上に住む者を試煉するため全世界に臨もうとしている試煉の時に、お前を守るであろう。

11 私は直に来る。(だから今)有っているものを(確り)握って、誰にもお前の(光栄の)冠を取られないようにせよ。

12 勝利者はこれを私の神の宮における柱にしよう。そして最早決して外に(離れ)出ることがないであろう。また私はその上に、私の神の名と、天から、私の神から降って来る新しいエルサレム、(すなわち)私の神の都の名と、私の新しい名とを書くであろう。

13 耳を有っている者は、御霊が(全)教会に「何と言い給うかを聴け」と、ヨハネは主からの手紙を書き、天使宛に送りました。

◇10～11節；「お前は私の忍耐(に倣って忍耐し、これについて私)の言を(よく)守っ(てくれ)たから、私もまた、地上に住む者を試煉するため全世界に臨もうとしている試煉の時に、お前を守る」(10)が、神の御子イエス・キリスト様の第一の約束、「(今)有っているものを(確り)握って、誰にもお前の(光栄の)冠を取られないようにせよ」(11)が、神の命令です。

⇒「フィラデルフィヤ教会」は、「私の忍耐(に倣って)忍耐し」と、「神信仰の忍耐力」も、「お前の(善い)業を知っている」という評価基準でした。

⇒それゆえに、「サタンの会堂」に属する人々の虚偽を見抜き、「神の会堂」に属することを大事にできたのです。

◇12～13節；「勝利者はこれを私の神の宮における柱にしよう」という第二の約束を与え、「最早決して外に(離れ)出ることがない」、「私はその上に、①私の神の名と、②天から、私の神から降って来る新しいエルサレム、(すなわち)私の神の都の名と、③私の新しい名とを書く」と第三の約束を与えて下さいました。

⇒フィラデルフィヤ教会は、「勝利者」なのです。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章では、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を持って生きるキリスト者への励ましのことばと黙示の神の御子イエス・キリスト様の愛の思いが啓示され、2章1～7節は、エペソ教会へ、8～11節は、スミルナの教会へ、12～17節は、ペルガモの教会へ、18～29節は、テアテラの教会へ、3章1～6節は、サルデスの教会へ手紙です。
- ◇ヨハネの黙示録3章1～6節は、フィラデルフィアの教会へ手紙です。
 - ⇒「さばき」は、神の専権事項、恵みも、神の専権事項、「神礼拝σέβομαι」に全力を注ぎたい。
 - ⇒「祈り、願い、讚美、再宣言」と「神の愛と恵み」は、神のしもべの使命です。

- ⇒ヨハネに黙示されたことは、「神礼拝をする σέβομαι」ことに、「(主にある)患難、王国(における幸福)、イエス(来臨)の待望」をもって戦う「ヨハネの兄弟」とされたことを光栄に思う神の教会の人々によって継承されるのです。
- ⇒「フィラデルフィヤ」は、誹謗、迫害、虚偽に苦悩させられましたが、神信仰による忍耐力を発揮して、「お前の(善い)業を知っている」との高い評価を受け、「お前を愛していたこと」を敵に対して示すと、語るほどに神の真実な愛を啓示されたのです。
- ⇒「サルデス教会」は、「目を覚まし γρηγορέω」は、「神の御子の復活」に与ることを求められましたが、「フィラデルフィヤ教会」は、神のみことばに「目を覚まし γρηγορέω」、「神の御子の復活」に与る忠実な神に向く生活を堅持する忍耐力を持っていたのです。
- ⇒「試煉の時に、お前を守る」、「神の宮における柱にする」、「①私の神の名と、②天から、私の神から降って来る新しいエルサレム、(すなわち)私の神の都の名と、③私の新しい名とを書く」との神の3つの約束を与えられました。